

## 男鹿半島散策報告 (2019年6月25日)

「大人の休日倶楽部」の切符は4日間利用可能で、前3日間には「岩木山・十二湖巡り」を目指して歩いてきた。三浦さんは“オマケ”に、「男鹿半島散策」を計画してくれたので、私もそれに参加することにした。他に賛同した人は「風の会」の伊藤（宏）さん、市川さん、池田さんで、計5名での行動になった。（これは即ち、私が「風の会」の行事にゲスト参加したことになる。）従って、この報告は、「岩木山・十二湖巡り」を終えて秋田駅で本隊と別れてからのことになる。

秋田駅で伊藤さん達と別れて、小雨の中18時少し前に駅前数分の所にある「中通り温泉 こまちの湯 ドーミーイン秋田」にチェックインした。建物は割合新しく、少しお値段が高い分広さ、設備などは良い。11階に温泉の風呂がある。荷物を置いてすぐに夕食に出る。ホテルのお奨めに従い直ぐ近くの「秋田郷土料理専門店 うみひこ」に入った。

まずビールで乾杯してから、まあ折角だから秋田の郷土料理を頼みましょうと、順番に注文する：比内鶏の串焼き、はたはたの塩焼き、きりたんぼ鍋、しょつつる鍋、ジュンサイの酢の物、地鶏のサラダ、極め付きは地酒の“飲み比べセット”と銘酒“高清水”であった。池田さんが女性の細やかさで、鍋の料理を皆に取り分けてくれた。飲み比べの酒は辛口と甘口2種だが、池田さんは「辛口の方が絶対に良い」と言っていた。三浦さんがぼそっと「金山の池」に向かう標識の無い分かれ道でのことを話してくれた。「俺はこっちの方だと思ったんだけど、伊藤さんがそっちというので付いていったんだよ」しかしお陰で鉄塔の高い所から十二湖を眺めることができたんですね。また「こういう間違いに気づいて、さあどうしようと思った時、地図とコンパスで正しく判断を下すことは難しいね。なにせパニックになっているから。こうなると経験と勘に頼るきりないよ。勘は経験を積んで磨かれるものだ。」と貴重なアドバイスを頂戴した。そして、20時ころお開きにした。会計を頼み、2階の畳の部屋だったので、靴を脱いだ処にいったが靴がない、下駄箱もない。三浦さんが「靴を人質にとられた！」と。仲居さんにお金を渡してようやく“人質”の靴を出してもらった。下駄箱の鍵を受付に預けなければならないシステムは経験したが、直接靴を隠されたのは初めてだ。

翌25日、朝6時頃目が覚めたら曇り、そのうち雨が降ってきた。今日は8時52分秋田発の列車に乗ることにしていたので、ゆっくり7時過ぎに食堂に行くと、皆さんはもう半分終わっていた。“ビュッフェ式”の食事を食べて、8時20分に玄関口集合と決まった。雨の用意をして行くと、少し小降りになっていて、結局傘を差さないでも駅に行けた。

男鹿線の列車は2輛編成で「エナジー・アキュムレーティング・ビークル：ACCUM」というバッテリーカーだった。「なまはげ号」のヘッドマークが付いていた。前車輛は赤色、後車輛は青色に塗られている。架線が張ってあり、しかもロングレール、複線とは驚き！しかし3駅目の「追分」から、架線は無くなり、単線、ショートレール、線路の中には雑草が生えているという本格的ローカル線になった。今や雲は少しあるが完全に青空になっている。ラッキー！

9時49分に11番目の終着駅「男鹿」に着いた。駅構内の観光案内所に行く。その秋田美人に「入道崎」「なまはげ館」への行き方を訊いたら、時間契約のタクシーはどうかという提案がきた。3時間で¥27,500円という。希望を直接相談したらよいと言われ、池田さんが折衝掛り、結局¥25,000円で“契約”した。池田さんの交渉力は抜群だ。

到着したジャンボタクシーに乗り10時に出発。秋田美人のお嬢さんのアドバイスに従い海岸沿いの道を走ってもらう。運転手さん「時間内で走りますから」を強調していた。（お礼と言って¥1,500/¥300/Headを上げたら、後は愛想が良くなった。）

「鵜ノ崎海岸」：沖へ200mほど浅瀬があり、1.5kmほど続くと。粘土質で岩盤のみ残った。次に現れた「ゴジラ岩」はやはり侵蝕できた奇岩、夕日を口に咥えた光景がベストか。「赤神神社五社堂」は、海岸から鬼が積んだという伝説の“999段”の階段を上がらねばならないのでパスした。11時20分に高台の「八望台」到着。男鹿半島先端に近く好展望地。北に入道崎、南に最高峰の本山（715m）、東に寒風山（355m）、足元に戸賀湾を見下ろす。

11時45分に半島最北端の「入道崎」に着いた。野っ原の中に灯台が建っている。「ロカ岬」を思い出した。115段の螺旋階段を登って上からの眺めを堪能した。時間も少なくなってきたが、紫陽花で有名な「雲昌寺」に行く。それほど広くはないが境内には一面に最盛期の青色の紫陽花が咲いている。2017年の国内ベスト絶景の第1位に選ばれたという。納得できる。青色に統一しているのが良い。

「なまはげ館」へ寄る時間はなくなり、あとはひたすら駅に戻り、丁度13時（3時間）に男鹿駅に帰着した。ゆっくり座る時間が無いので、駅前の道の駅で食べ物を調達して列車に乗った。朝と同じ新型車両で、14時45分に秋田駅に到着したので、“地元貢献”のための余裕時間を考慮して、16時12分発「こまち32号」の切符をボックスで取った。

帰りの列車内での反省会はおっぱら「風の会」に関する事。夏の槍ヶ岳計画などについて話し合った。小生が「鬼が笑うかもしれないが、来年の夏の「大人の休日倶楽部」では『八幡平→後生掛温泉』とか、『秘湯・乳頭温泉→秋田駒ヶ岳』（ここに居る人達は行っていないみたい）などはどうでしょう。」と話した。

記 陽 田



2019.6.25 ドーミーン秋田前にて



男鹿線・ナマハゲライン ACCUM 車



ゴジラ岩



ナマハゲ像



2019.6.25 11:42 入道崎にて